

働きがいと希望が実感できる社会の実現を

生産性運動は、国民運動として開始され、生産性三原則（雇用の維持・拡大、労使の協力・協議、成果の公正分配）も国も参加するなかで確認された。

生産性運動は、単なる生産増強運動、能率・効率向上運動とは異なる。生産性とは、「今日は昨日よりも良くなし得るという確信であり、さらに、明日は今日に優るという確信である。それは現状がいかに優れたものと思われ、事実優れていようとも、かかる現状に対する改善の意思である。」（ヨーロッパ生産性本部のローマ会議報告）とされている。生産性運動はこの精神を実現しようとするものである。

急速に進む人口減少、グローバル化の進展、AI や IoT などのデジタル化、社会の持続可能性への危機などに対処するには、普遍原理である生産性運動、生産性三原則を徹底する以外にはない。

1955年に開始された生産性運動が、日本の生産性を向上し、働く者の生活、ひいては今日の国民生活の豊かさを築いてきたことに疑問の余地はない。しかし、昨今、人間性尊重を基礎とする生産性運動がゆらいでいる。すなわち、能率や効率、結果に偏重した経営が、長時間労働や過労死問題、品質に関する疑念を引き起こしている（人間性尊重の否定）。非正規雇用が40%に迫り（第1原則の揺らぎ）、労使協議への参与機会が低下し（第2原則の揺らぎ）、労働分配率の低下が指摘されている（第3原則の揺らぎ）。

労働組合の立場から生産性運動を推進する全国労働組合生産性会議（全労生）は、今春の交渉・協議を契機として、政労使のすべてが生産性運動、生産性三原則の意義を再度確認し、着実に実践することを求める。併せて、時代の変化を踏まえて、生産性三原則を深化させるべく、以下について積極的な論議を期待する。

1. 質の高い雇用の拡充を

働くことを通じて一人ひとりが成長する生産性の精神を担保するために、意欲と能力に応じてすべての人が働ける社会を目指さなければならない。フルタイム労働を希望しない人々が働く可能性を高め、長期安定雇用を保障し、同一労働同一賃金の実現など、働きに見合った納得性の高い処遇を実現するとともに人材育成に積極的に取り組まなければならない。また、長時間労働や過重労働問題は、法律による規制ですべてが解決するわけではない。労使は、問題の根底にある職務範囲の明確化と必要な要員確保に総力を挙げる必要がある。

2. 労使協議の質の向上と拡がりを

労使の信頼関係は、徹底した労使協議を通じて成り立っている。しかし、経営の重要

な意思決定事項を事前協議の対象としないなど、労使協議制の質の低下が指摘されている。団体交渉と労使協議は性格が異なる。生産性向上の意欲を高度に維持するには、働くすべての人の理解と納得が必要である。そのためには、すべての経営の意思決定過程に労使協議が位置付けられなければならない。

また、グローバルを含めたグループ労使協議制や産業ごとの労使協議制の確立に傾注すべきである。

労働組合がない場合は、労使協議機関はほぼ設置されていない。労使協議の有用性に照らして、労働組合がない企業における労使協議機会の確立に積極的に取り組むべきである。また、労働者を正當に代表する最大の労働組合をすべての政策の策定過程に参加させ、定期的に労働組合との対話の機会を設けるべきである。

3. 成果の公正分配の実現と概念の拡張を

良質な雇用が保障され、生産性向上のための労使協議が尽くされ、そして公正分配がなされて生産性三原則は完結する。公正分配は次の生産性向上の糧である。収益が低迷しているときはそれを理由に、収益が回復・上昇しているときは将来の不透明さを理由として適正分配に躊躇するのであれば、生産性運動は崩壊する。

景気回復が実感を伴っていない。個別最適が全体最適とはならない合成の誤謬や労働分配率の低下が指摘されている。働く者の生活向上を図り、自律的で底堅い景気回復を目指すためにも、社会全体で成果の公正分配を実現しなければならない。

賃金などの規模間格差の主たる要因は取引価格の低迷である。自らの利益のみに固執することなく、消費者を含めたサプライチェーンのすべての取引における適正価格、および、取引先の働き方を考慮した取引を実現しなければならない。政府は公正取引の実現と企業間の行き過ぎた価格引き下げ競争を防止するために、独占禁止法などの厳格な運用と必要な改正を図るべきである。

2015年に国連でSDG's(持続可能な開発目標)が全会一致で採択された。貧困や飢餓の撲滅、ディーセントワーク、気候変動への対応や資源の持続可能な利用などが確認された。社会の一員である企業、労働組合は、持続可能な社会にいかに関与するかについて積極的に論議を闘わせ、実行に移さなければならない。

以上

2018年2月14日

全国労働組合生産性会議
(全労生)